

その後いかにあつてお過ごしですか？プロジェクト



岡崎森林組合



対応してくれた人の名前：組合長 眞木宏哉
 調査員：唐澤晋平、蜂須賀 功
 レポート作成者：唐澤晋平
 取材日：2016年12月12日
 取材場所：岡崎森林組合

活動内容（「山村再生担い手づくり事例集」より）

人口、約38万人の岡崎市は古い城下町だが、23,300haに上る森林を擁する「森林都市」でもある。当組合は市内にあって、その森林のあり方に責任を負う希少かつ最大の専門技能集団である。制度的には森林組合法に基づく森林所有者の共同組織であり、地域の森林管理の主体として、施業集約化等により森林・林業の再生に積極的役割を果たすことが期待されている。

主な活動内容は、①地域最大の資源でもある森林の「保全整備」と「林産・素材等販売」、②地域の木材の利用が国土資源の保全につながり、流域の人びとの生命にも関わるという事実を踏まえた「木質社会の見える化」という息の長い地域運動である。具体的には、主伐・除間伐・下刈り、枝打ち・作業道作設・集材・造材・搬出・輸送・素材販売・毎木調査・選木・本数調整伐・林地境界（施業界）の画定・団地化説明会・造林事業提案書・・・多岐にわたる。

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

提案力、技術力、経営力、安全力をキーワードに組織作りを進めている。

○提案力

団地化、集約化を進め森林経営計画の策定に力を入れており、山主への提案力が求められる。今は600haくらいだが、今後森林経営計画が基本になってくるので数十～数百ha単位で取りまとめていく必要がある。

○技術力

岡崎市の労働人口が16～17万人なのに対して林業事業者は100人もいない。天然記念物のカモンカよりも少ない状況の中で我々が信頼を失うことが無いよう技術を高めて行かなくてはならない。昔から自伐林業をしてきた山主は変な施業をしようものならばすぐに分かってしまう。

○経営力

とにかくコスト感覚を持つとすることが重要。4年前は赤字だったが、採算が取れていなかった製材加工部門をやめたことで黒字化できた。ただ、本当にやめて良かったのかという思いもある。

○安全力

ヒヤリハットの報告、事故報告を徹底している。毎月1回は安全教育集会を開き、学習会やKY票の提出、ファーストエイドの点検等を行っている。今日も外部企業の講師を招いてコンプライアンスの研修を実施した。安全管理、労務管理、コンプライアンスは厳しくやらなければならない、事務方も重要になる。

今の職員の8割が1ターン。市外、県外からも思いを持った若いメンバーが外から入ってきてくれることはありがたいが、だからこそ責任も持たなくてはならない。

以前は皆伐・植林もあったが、このごろは植林をしたことがない職員も多い。最近、循環型林業として市有林での皆伐・再造林を始めた。獣害対策としてネットを張るのにコストが大きいのが課題。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？現在の課題は何ですか？

・経営上、材価が安いことは一番の課題。一次産業が一番しわ寄せが来て買い叩かれる。補助金があるから成り立っている。新たな取り組みとしてフォレストストック協会と連携して排出権のクレジット化プロジェクトを始めようとしている。付加価値を高めて行く仕組みとして、森林認証の取得も考えている。

・国の政策がころころ変わるのが困る。現場は長い計画を立てて人や機械の段取りをしているのに。

・現場に入る女性スタッフが増えてほしい。



岡崎森林組合 事務所外観



眞木組合長と森林組合の敷地内に積まれた丸太。
これらの木は市内の公共建築物に使われるとのこと。